【概要報告】美濃市 将来の学校のあり方検討会（第２回）

日時：令和５年１１月２１日（火）19:00～
会場：美濃市防災中央コミュニティーセンター
司会：美濃市教育委員会　教育総務課課長補佐

１　挨拶（美濃市教育委員会 教育長）

（１）検討会第１回の後、３回の視察研修を企画した。視察の結果や日頃の思いを本日以降の検討会に反映させて、検討会を進めていただきたい。

（２）昨日、新制服に関する標準服の報告を受けた。部活動地域移行も、次年度９月の実施に向けて準備を進めている。学校でも授業や行事の工夫をするなど、改革や改善は確実に進みつつある。

２　第２回検討会に至る経緯の報告（資料参照）

（１）教員の意見聴取結果
（２）中学生の意見聴取結果
（３）市民の意見聴取結果
（４）市民アンケートの結果

３　検討会

1　視察した義務教育学園の中には、移住者に期待しているところもあった。美濃市にも体験保育の希望者が多いと聞いた。多くの家族に移住してもらえると良い。

2　１～９年生が関わる縦割り活動がすごく良くて、美濃市でもやりたいと感じた。先生と子どもの関係にも相性の良し悪しがある。美濃市でも、小学校の高学年でいろんな先生と関わる教科担任制をできないか。

3　１～９年生が関わることで高い学年の子どもが優しくなり、学校も落ち着いていた。視察校は、どこもふるさと教育に力を入れていた。美濃でも今以上にできるとよい。

4　多様な子どもの関りを大切にする教育活動を視察した。幼保段階の子どもとの関りを実践しているところもあり、学年の高い子どもにとってのメリットがあることも理解できた。低い年齢の子どもたちの成長にも配慮したい。すべての子どもが成長できるビジョンが大切だ。

5　自分が幼い時には、経験豊かな年長者との関りがあった。学校だけが横（同年齢）関係を基盤にしている。縦社会と横社会の両方を大切にしたい。地域が学校とどういう形で関わったら良いのかを考えている。

6　視察した学校はどこも魅力的だった。それを実現するためには、キーパーソンが何年にも渡ってプロジェクトにかかわり続けることが必要だ。細やかな子どもの変化に気付き声をかける校長先生の姿も視察で見られた。

7　同じ顔ぶれの学校生活が続くと、閉鎖的な人間関係になる。市内の保育留学には、多くの希望者があると聞いている。その人達が現実に移って来られるように考えたい。

8　ふるさと学習は簡単につくり上げることができない。統合して義務教育学校になった際、学校がなくなった地域住民のふるさと学習に対する理解と協力を得るのが大変だったと聞いた。また、美濃市内の先生たちが肌感覚でとらえている 1 学級の児童・生徒数は 20～30 人が好ましいという数値は、国立教育政策研究所の調査結果でも「好ましい教育効果が得られる学級の子どもの数」として明らかになっている。島田教育長の唱える「自分で何とかする力」を育むためにどうするかを、これから考えていきたい。

9　小学校から中学校までずっと同じメンバーが続くことはどうなのか。視察した学校では一学年の児童生徒がとても少ないので、縦割りグループの組み換えで変化を生み出していたが。

10　同級生の仲間関係に変化がないのは気になる。楽しいか楽しくないか、子どもたちにとっては大きな問題で、子どもたちは席替えだけでも楽しみにしている。

11　子どもが楽しいと思える学校にしないといけない。

12　「友達と遊べる」「いじめられない」「給食がおいしい」が楽しさの条件。

13　担任の先生との相性もあると思うが、子どもは先生と 1 対 1 のコミュニケーションを求め、それができることを望んでいる。

14　大根を育てたり畑の作業をしたり、地域の方と野外の活動を一緒にすることは子どもたちにとってワクワクする楽しい時間で、それも素晴らしい勉強だ。

15　「先生が休んで何日もいない」「楽しみだった行事もやらない」「給食残すなと先生に言われる」というようなことが続き、「学校へ行きたくない」と子どもが言い出した。子どもが願うことをかなえてやることは大切なことだ。

16　トイレをきれいにしたら、他の階の子どもたちがそのトイレを使いに集まって来た。子どもにとってきれいなことは大切。新しい学校をつくるなら施設にお金を使って欲しい。

17　日本の学校にはまだ和式トイレがあるが、子どもたちの家庭にはもうない。他市では地域の人が施設を整えたところもある。

18　他市の中には子どもが望む施設を 1 カ所に集中させているところもある。美濃市もそうできると良い。

19　学校が塾のような特別指導をしているところがあった。また、高学年の子どもに対する学童保育もできるとありがたい。

20　土曜に開催された参観行事で PTA 主催の観劇があった。すごく楽しい会だった。視察した学校にもあったような、昔の講堂のような、小さめの温かみのある集会室、和紙を貼ったような部屋が学校に欲しい。

21　市内はすべて私立の幼保園で、園長は集まる機会があるが、先生たちは関わりの機会が少ない。幼保と小中学校の先生の交流や連携ができることが大切。

22　幼保園、小中学校、地域の関係には「素敵なゴチャゴチャ感」が欲しい。先生たちの集まりやすい場もあると良い。

＜複数＞　… お茶があると … 飲食スペースがあると良い …

23　学校にも限界があり、何もかもやるのは無理。アウトソーシングできるものはするようにしたい。

24　今、幼児教育の場でも公認心理士や臨床心理士などの専門家が配置され、活躍している。新任の先生やコミュニケーションの不得意な先生のサポートも必要になっている。

25　学校の多くの活動の中で「ダメなことはダメ」と言うことも大事。そして、先生が元気に子どもの前に立てることも大事。

26　すべてのトイレを洋式にした町もある。そのような学校のいろんな仕事を保護者や市内の業者に任せることはできないか。そうすれば保護者が遠くへ働きに行くこともなくなる。子どもにとっても、知り合いのおじさんや親が学校に出入りすることは良い学校のイメージにつながる。

27　地域の方が気軽に「ちょっと学校に寄って行こうか」と思えるような学校にすることも大切。

28　昔は小学校の運動会を近所の人も見に行った。近所の人たちが学校の畑の世話もしていた。今はそうしたこともなくなり、運動会の日も知らない。学校に足を向かわせることができる社会にしたい。登下校時の見守り隊も地域で受けているからやっていて、地域の方の自主的な活動とは言えない。

29　今、こうして話し合いができていることは、みんなで学校と地域の関わり方を考えていくチャンスかもしれない。学校と地域が温かく関わり、良い意味でゴチャゴチャした関わりができると良い。それをつくろう。ゴチャゴチャはチャンスになる。みんなで「令和版オラが学校づくり」を考えたい。

＜複数＞　… 挨拶してくれるとか … お互い顔見知りの関係だとか …

30　学校の子どもたちは良く挨拶してくれる。子どもたちも地域の人を受け入れる体制ができているし、それを喜んでいる。関わりができる基盤はできているのではないか。

31　お互いが顔見知りの関係をつくれば、地域の方が学校へ入ってきても問題はない。顔見知りの関係をつくる事がとっても必要になっているのかもしれない。

32　地域の中心に学校があると、いろんな活動がやりやすい。学校図書を地域住民に貸し出すようなこともできる。そんな学校になると「学校の安全は大丈夫か」という声も出てくる。学校は開放と安全のバランスを取る中で子どもたちの心の開放を目指したい。「子ども全員が楽しい」というのは難しいことだが、来年度は「全員が楽しいと思える時間づくり」に挑戦したい。のんびりしたい、没頭したいと思っている子どもたちは多く、3日間イラストを描き続けた中学生が「没頭できて楽しかった」と語った。没頭する授業づくりも始めたい。これまでは、一斉指導をすることで個人の学習時間が保障されない場面もあった。

33　これまでのコロナ禍では、「子どもたちの学びを止めるな」という掛け声の下に、何かと配慮して「一人で学べない子ども」にしてしまった。プリントやタブレットを利用して、教師の指導に従う子にしていた。文科省は個別最適な学びと言っているが、本当に自分で何とかする力を育てることを考えたい。

34　今日はいろんな意見を聞くことができて、参考になり勉強になった。次回はこれらをまとめていく方向になると思われる。次回までに、本日配布の資料に必ず目を通して、次回の話し合いに参加いただけたらありがたい。

4　連絡

（1）次回の検討会は1月中旬の予定。改めて案内を発送する。

（2）この検討会の開催については、設置要綱にもとづいて進める。

（3）その他特別な連絡はなし。

【検討会終了 20:51】